



まんが子ども太平洋戦争物語

川が燃えた

西・守谷哲己

太平洋戦争地図

たい へい よう せん そう ち ず



← 日本軍の進路

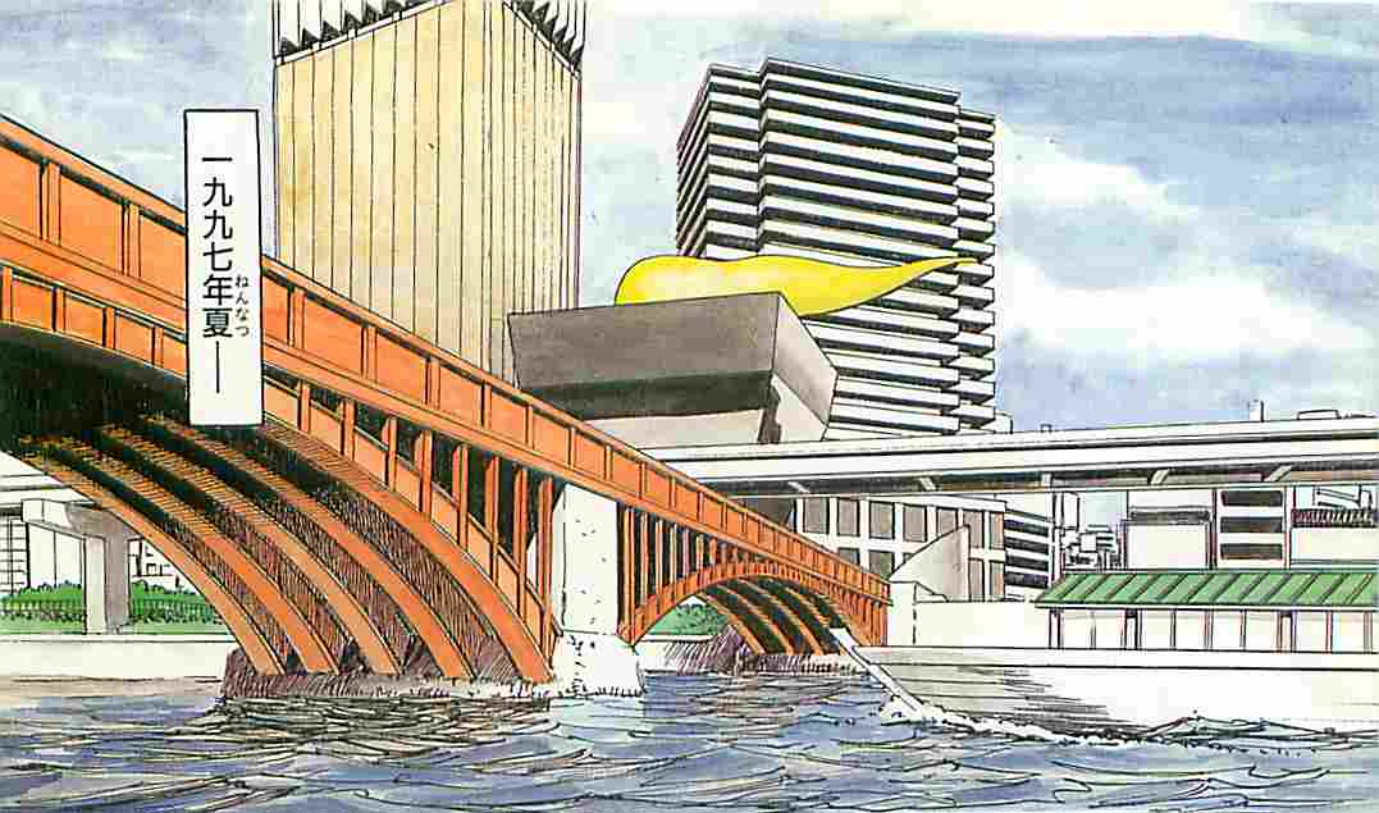
← 連合国軍の進路

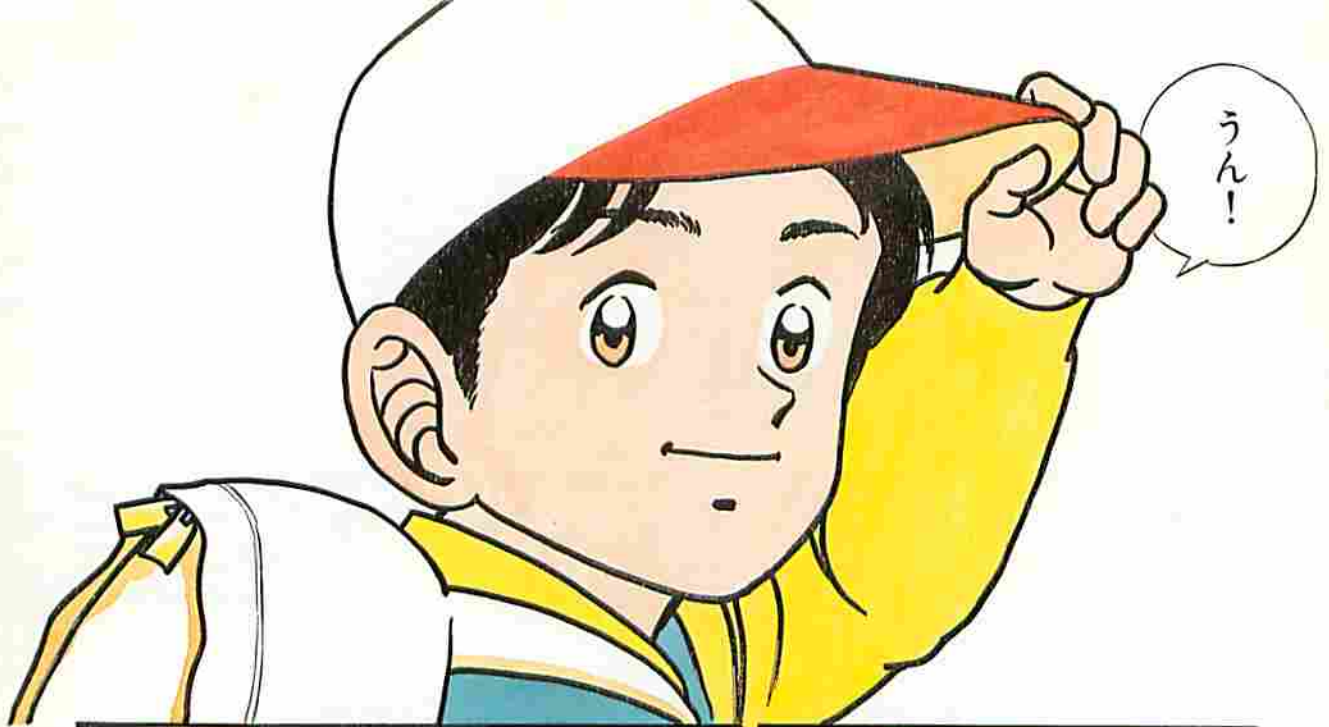
○ 太平洋戦争がはじまったところ(1941年)の日本の勢力範囲

⋯ 1942年の夏ごろの日本軍の最大進出範囲

(国名や地名は当時のものです)

一九九七年夏
——





うん！



夏休みのある日
ぼくは一人で
茨城まで旅行する
ことになった

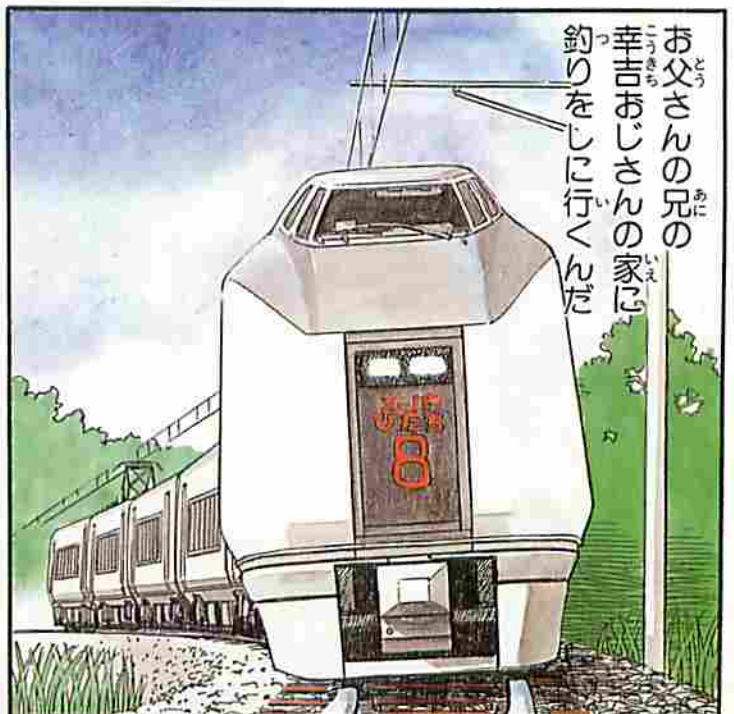


気をつけて
行くのよ

いってきまーす！



おじさんの家は
漁業をやっている
ので
釣りの大好きな
ぼくはずっと
楽しみにしていた



お父さんの兄の
幸吉おじさんの家に
釣りに行くんだ



おじさーん
こんにちは！

まあ
卓也ちゃん
いらっしやい



あなた
卓也ちゃんが
来ましたよ

おお
よう来た！



何してるの
おじさん

昔の写真を
整理してる
んだ

だいぶ
たまって
しまったからな



これ誰？

お父さんの
子どものときに
にってるけど……



私だよ

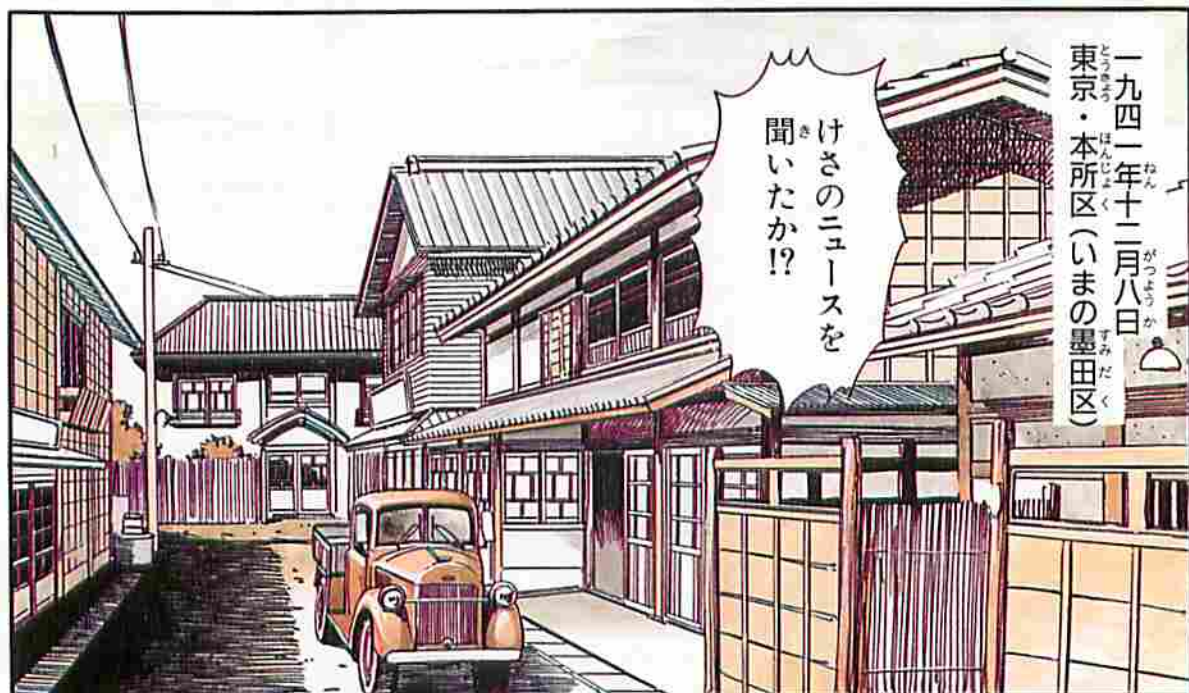
もう
六十年ちかくも
昔のな……



そのころ
日本は戦争を
していたんだ

ひどい時代
だった……

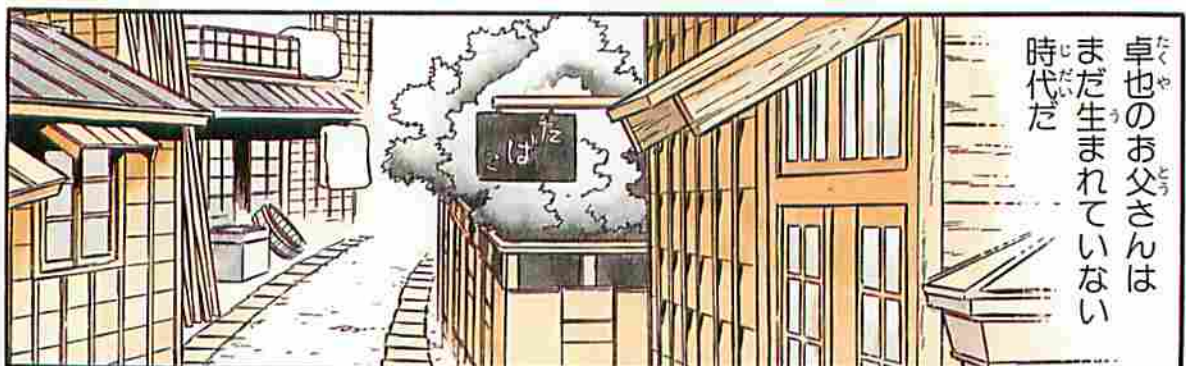
静かな悲劇のはじまり





このころの食事
太平洋戦争が始ま
ったばかりのころ
は、米の節約をよび
かけるはり紙はあり
ましたが、食べ物に
はまだ少し余裕があ
りました。もちろん
現在とはくらべもの
になりませんが、ご
飯がおいしく食べら
れるくらいのおかず
が食卓に並んでいま
した。
しかし、1942
年(昭和17)2月ご
ろになると次第に食
べ物が手に入りにく
くなつていきまし
た。みそ・しょう油
などが切符とひきか
えの配給制になつた
のも、ちょうどこの
ころからです。





資源が少ない日本は、金属回収令(1941年(昭和16))で、国民から金属製の門や看板や置物などさまざまなものを集めました。とくに武器をつくるのに必要な鉄と銅は、さかんに回収され、お寺のつり鐘までも集められました。生活に必要な鍋、釜、やかんなど最小限のものを残して、ほかはすべて回収されたのです。やがて戦況が悪化するにつれて、子どものおもちゃまでも強制的に集められるようになっていきました。

金属放出

引き裂かれたきずな

一九四二年四月



奥さん

あら野口さん

うん!

まさにも今日から
国民学校の
一年生ね

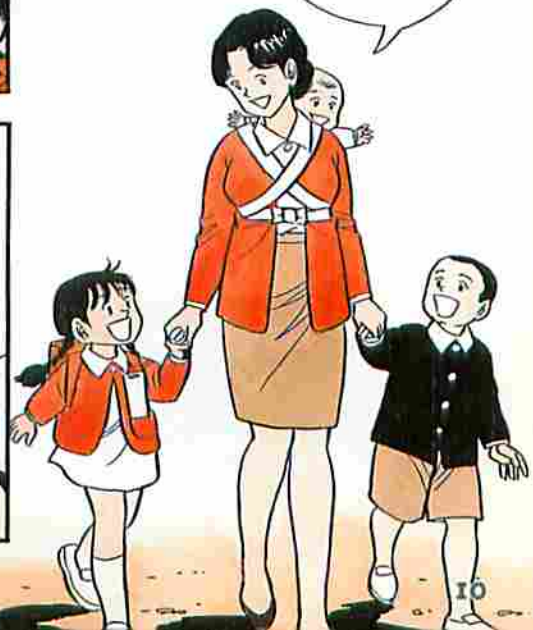


赤紙です

佐藤金属

とうとう
わたしにも
来ました

どうしたん
ですか?





それは……



なあに
赤紙って……?

野口さんが
兵隊になって
戦争に行く
のよ



野口さんまで
兵隊にとられちゃうと
工場も人手が足りなく
なっちゃうわねえ

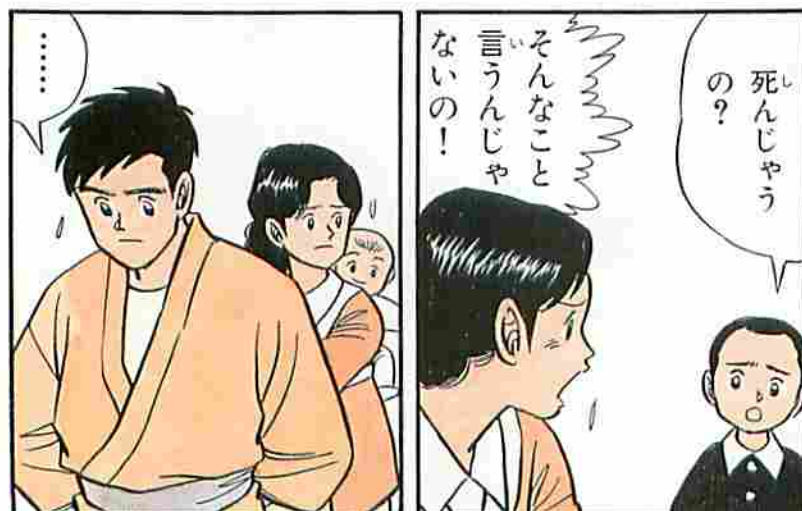
だんだん
仕事ができなく
なるなあ



父ちゃんも
戦争に行くの?

ん……

いずれは
行くことに
なるだろう

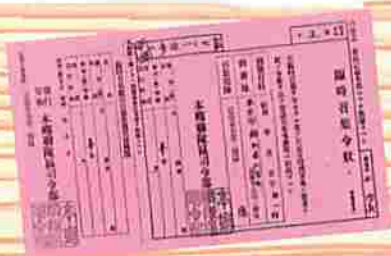


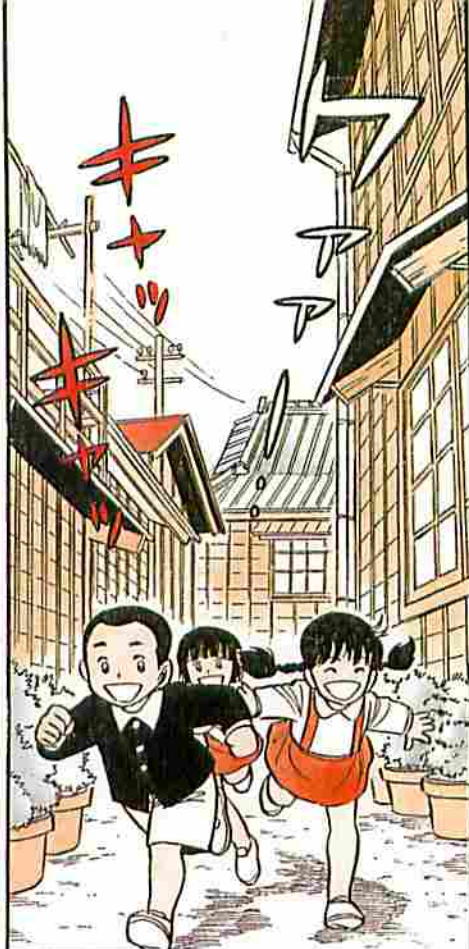
死んじゃう
の?

そんなこと
言うんじや
ないの!

赤紙

太平洋戦争では、日本の多くの男の人たちが戦場に集められました。国内に残った女の人たちも軍の工場で働くなど、さまざまな形で戦争に関わっていました。「赤紙」は戦場への呼び出し状「臨時召集令状」が、赤い用紙だったことから、こう呼ばれていました。人々は、この「赤紙」がいつくるか、恐れながら暮らしていたのです。まさに運命の赤い紙でした。







学生さんは
兵隊になるより
勉強してもらった
ほうがお国のため
になるんだ

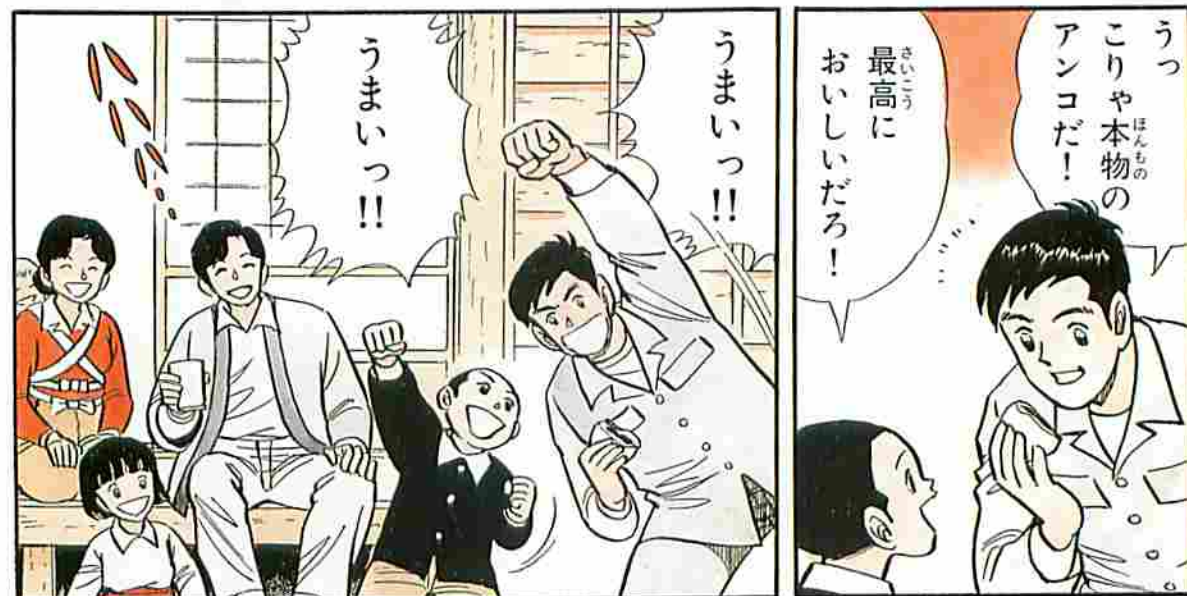
おいしそうな
ものありがとう
和彦くん



いやあ
いつも奥さんには
お世話になって
いますから……

隣組だから
助け合わなく
ちゃあな

父ちゃんも
食べてごらん



うっ
こりや本物の
アンコだ！
……
最高に
おいしいだろ！

うまいっ！！

うまいっ！！

隣組

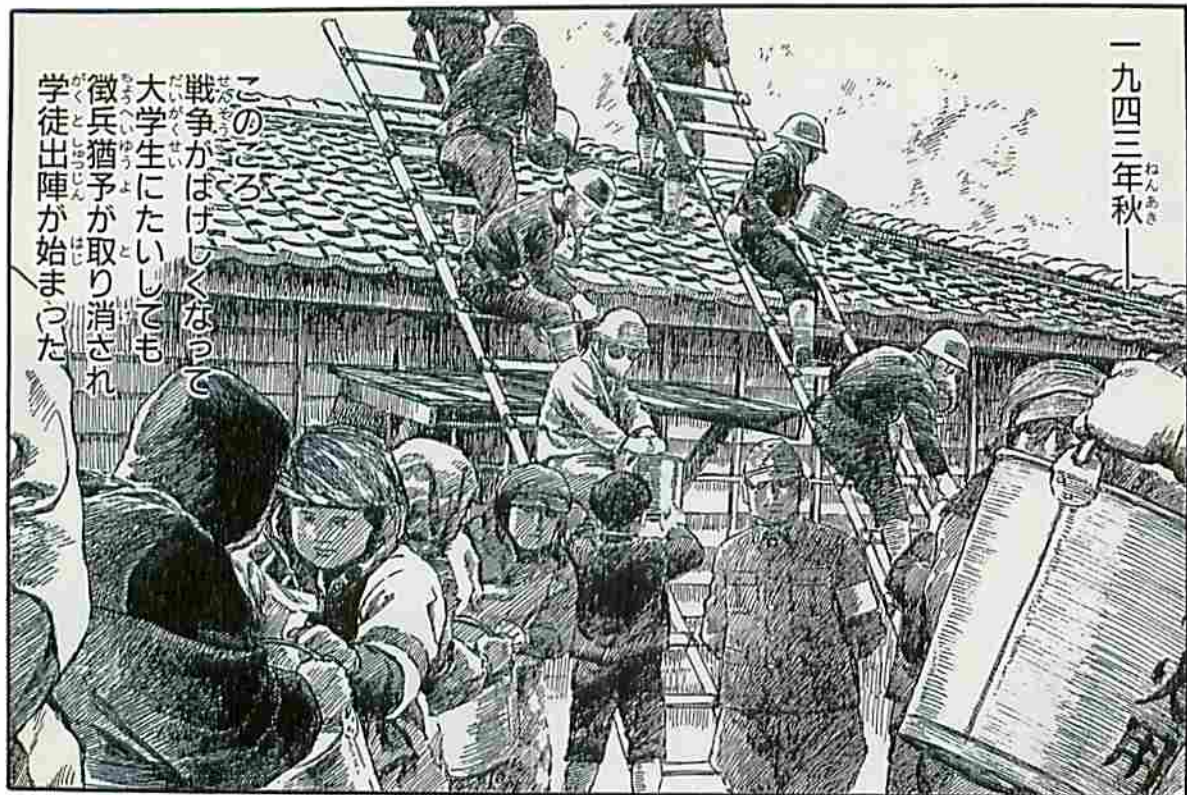
「隣組」は町内の10軒ぐらゐの家をまとめたグループで、日常生活から運動会などの行事まで、いっしょに行動することが義務づけられていました。

月に1回開かれる会合では重要な情報が伝えられるので、全員が出席しなければいけません。また、さまざまなお知らせなどが書かれた回覧板があり、つねに何が書いてあるのかに注意していました。

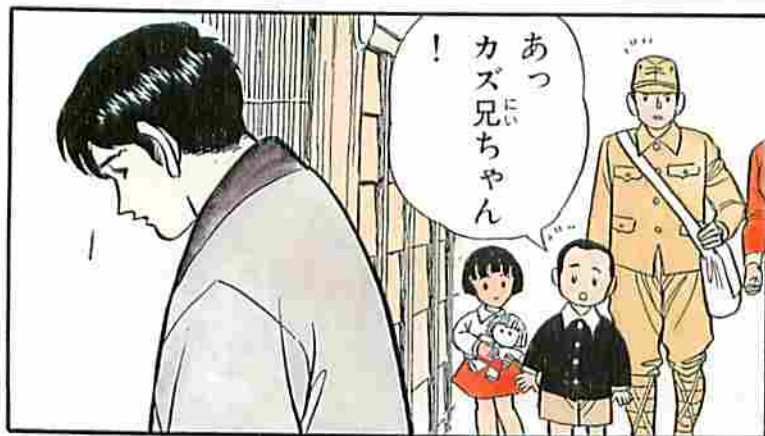
こうした隣組の決まりは、国が国民一人ひとりを管理しやすいしくみになっていました。



一九四三年秋



このころ戦争がはげしくなると、大学生にたいしても徴兵猶予が取り消され、学徒出陣が始まった。



あっ
カズ兄ちゃん！



佐藤さん
とうとうぼくにも
来ました



和彦さん？



本当に空襲なんてあるんですかね

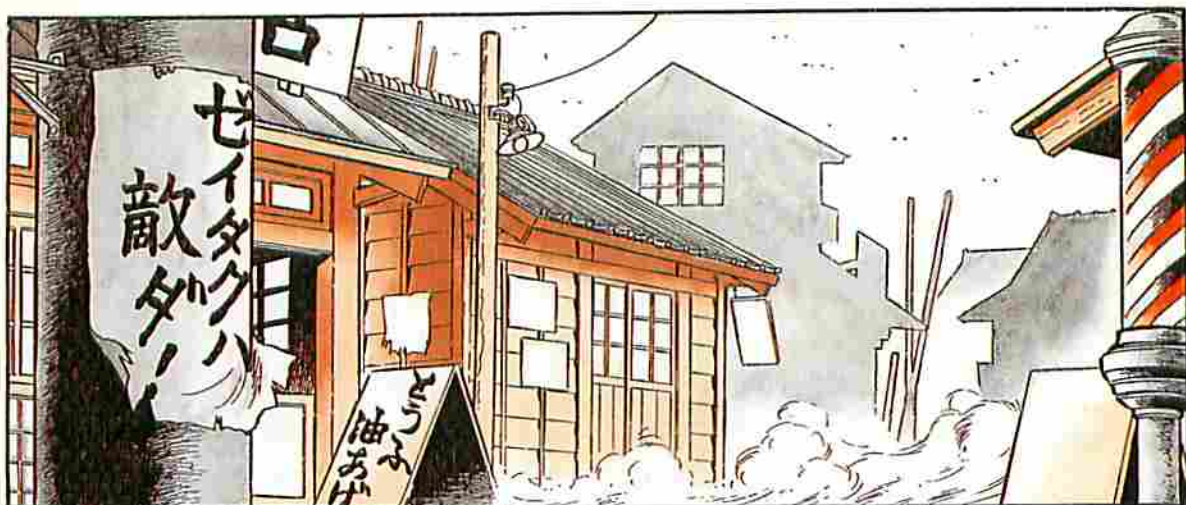
戦争だもの
何がおこるか
わからん



配給切符

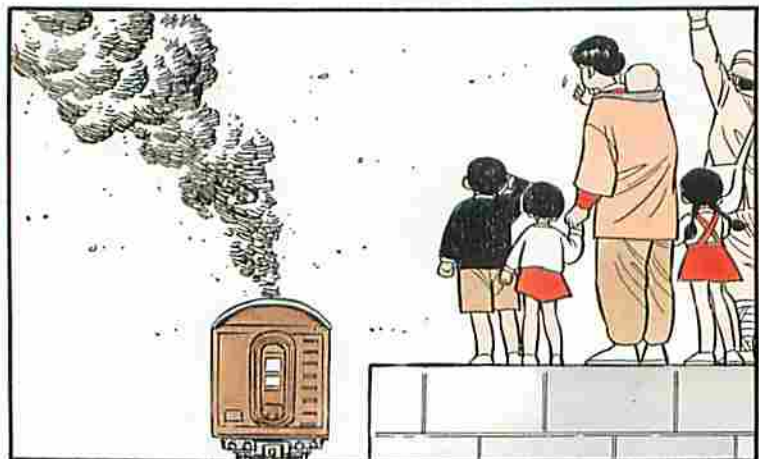
配給
1940年(昭和15)にマツチと砂糖が切符とのひきかえの配給になり、これより「配給制度」が実施されました。人々は、食料から衣類まで生活に必要な品物を自由に買うことができなくなりました。配給制度は家族の人数や年齢、性別などに応じて配給物の数を決め、隣組を通じて配るといしくみです。

やがて、物の質も量も低下して、配給だけで生活するのは困難な時代がやってきました。





バンザイ！
バンザイ！



代用品

米の配給は開戦のころから厳しくなり、1945年(昭和20)には大人1日約300グラムにまで量が減らされました。それもついには、小麦や大豆、めん類、節米、パンなどの代用品にかえられました。人々は小麦粉でつくった「すいとん」という代用品で何日もガマンしました。

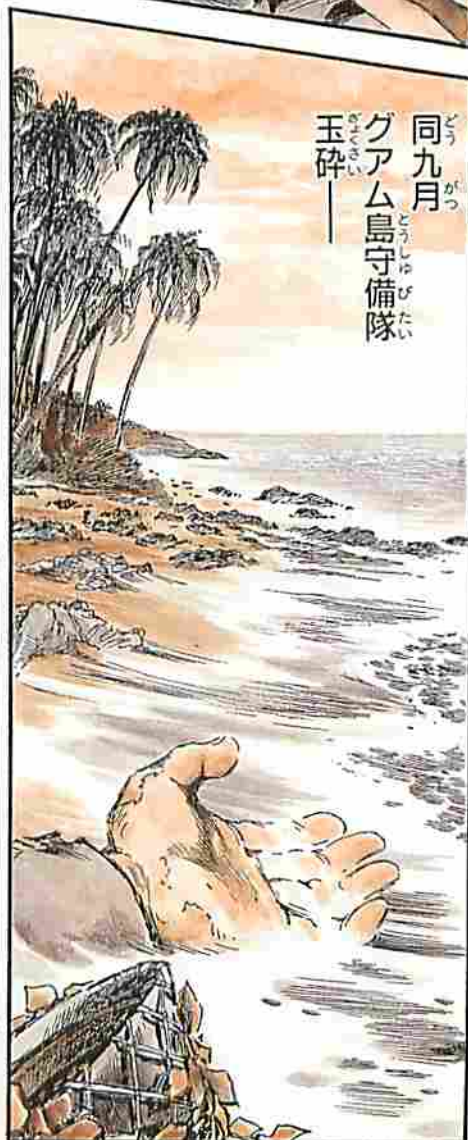
- (主な代用品)
- ごはん→すいとん
 - 布→スフ、人絹
 - 砂糖→サツカリン
 - ズルチン
 - 洗剤→米のとぎ汁
 - みかんの皮
 - コーヒー→炒った大豆



陶器のアイロン



一九四四年七月
サイパン島守備隊
玉砕



同九月
グアム島守備隊
玉砕



おとなの
考えることは
わかんねえや

本気でアメリカ軍の
戦争に竹ヤリでむかって
いくつもりなのかな...?



集団疎開

1944年(昭和19)

になると戦争が激しくなり、東京など大都市への空襲が予想されるようになりました。そこで、空襲の心配のない農村地帯に子どもたちを移動させる学童疎開が始まりました。

はじめは農村地帯の親せきや知人への縁故疎開がすめられました。したが、やがて国民学校の高学年の児童に対して地方のお寺や旅館などへの集団疎開がはじまりました。これによって都会の子どもの多くは親元を離れ、なれない土地でさみしい集団生活をしなければなりません。



あっ 川が燃えている

一九四四年十一月
本所区に初めて
アメリカ軍により
爆撃がおこなわれた！



十二月
両国などに
焼夷弾が落とされる

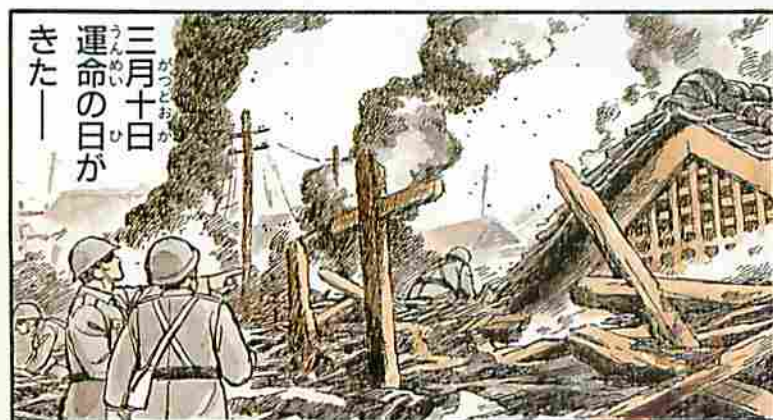
一九四五年
一月二十七日……

二月十四日……

十五日 十九日
二十五日……と
小さな空襲が
続き——



三月十日
運命の日が
きた——





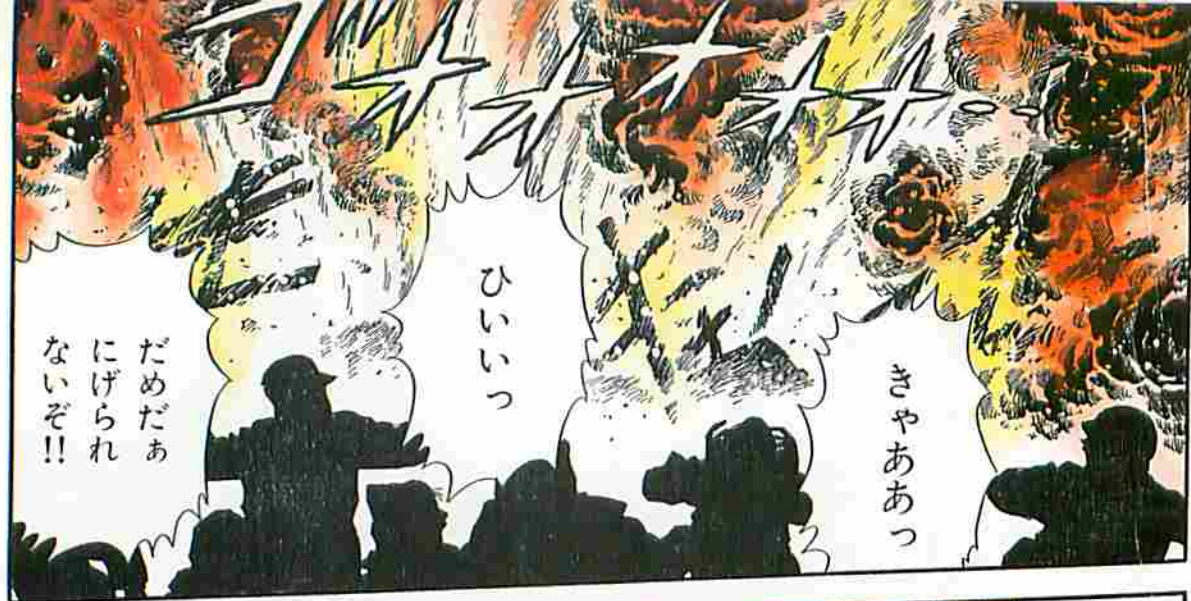
防空壕

敵の飛行機がやってくると空襲警報のサイレンが鳴り、人々はすみやかに防空頭巾などを身につけて防空壕に避難しました。防空頭巾とは古い布に古い綿を入れたぶ厚い肩まである頭巾で、江戸時代の消防服にヒントをえて考え出されたものです。空襲の時は子どもも大人もこれをかぶって、防火用水の水を頭からかぶりながら逃げました。

また、空襲をさけるため、地下にほった主に老人や子どもが入る大きな穴のことを防空壕と呼んでいました。







だめだあ
にげられ
ないぞ!!

ひいっ

ぎゃああつ



むこうに
行ったら
あぶない!

炎は川に
おかっている



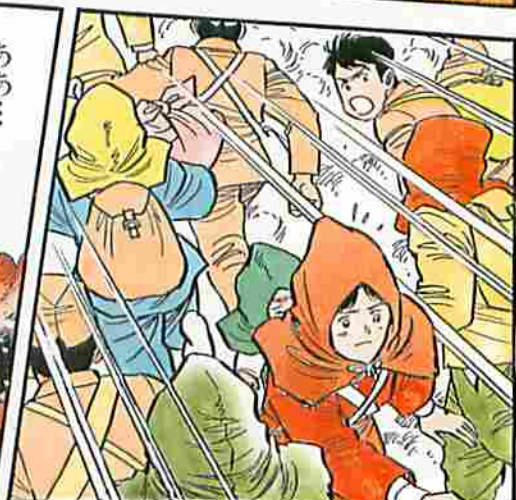
川だつ
水の中
にげる!

ぎゃああつ



死
んじまうつ

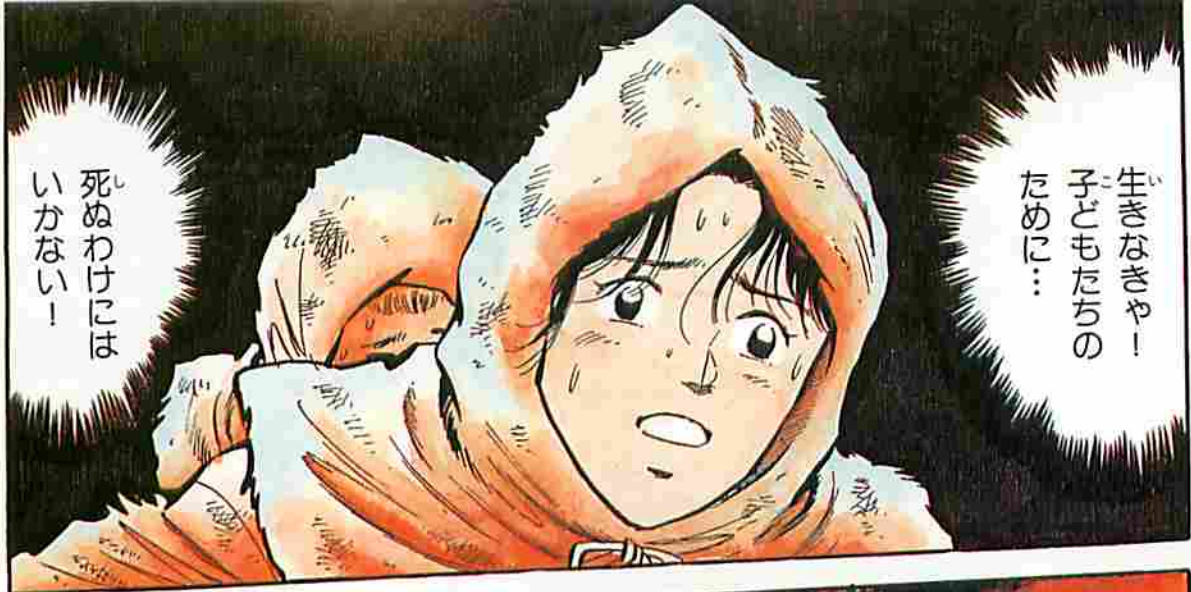
ああ:
もうだめだ!



1944年(昭和19)11月1日、東京上空に一機のB29があらわれました。つづいて5日と7日にも数機が飛んできました。これは東京のくわしい航空写真を撮影するための飛行だったのです。これが後に焼夷弾や爆弾で東京を焼きつくした大空襲の静かな静かな前かけでした。

この飛行機B29は、正確には「ボーイングB29」という超大型爆撃機。全長30メートル・最大時速576キロメートルというものすごい飛行機でした。

B
29



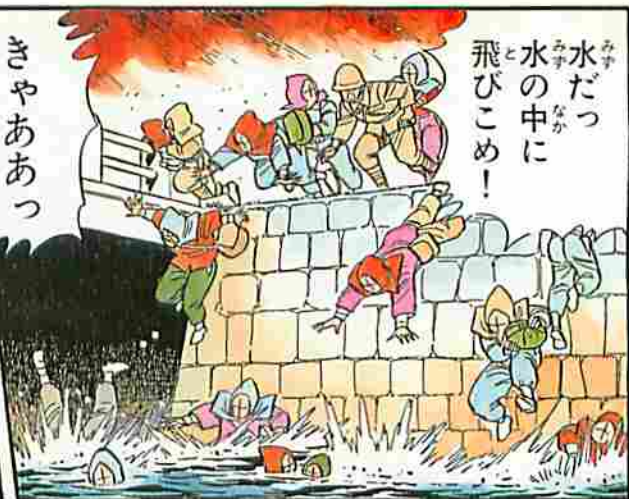
生きなきゃ！
子どもたちの
ために…

死ぬわけには
いかない！



木と紙でできた家は
B29がばらまいた
焼夷弾で簡単に
燃え上がった

人々は
火にかこまれて
逃げ道をふさがれて
しまったのだ



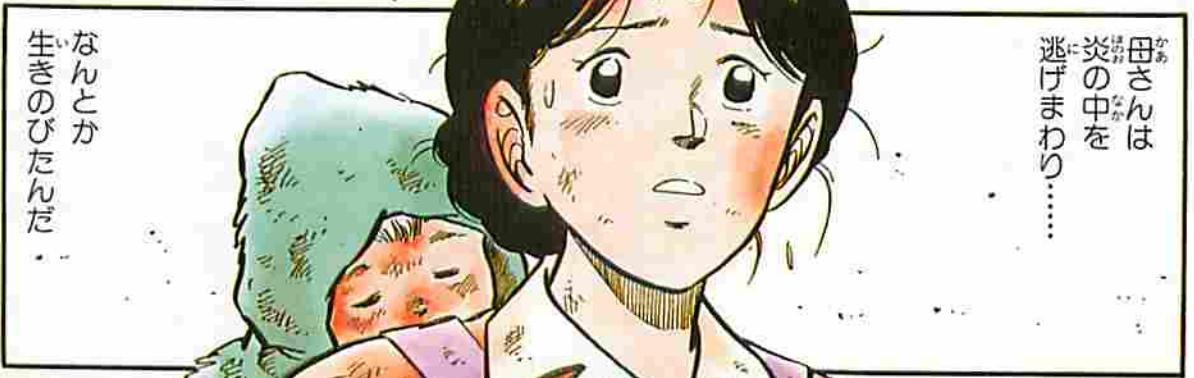


夜が明けようとして
すむ……

ようやく炎は
おさまってきた



朝日にてらされた
東京の町は
見わたすかぎりの
焼け野原になっ
たのである



田さんは
炎の中を
逃げまわり……

なんとか
生きのびたんだ



しかし……

邦男……？



どうしたの
すっかりして

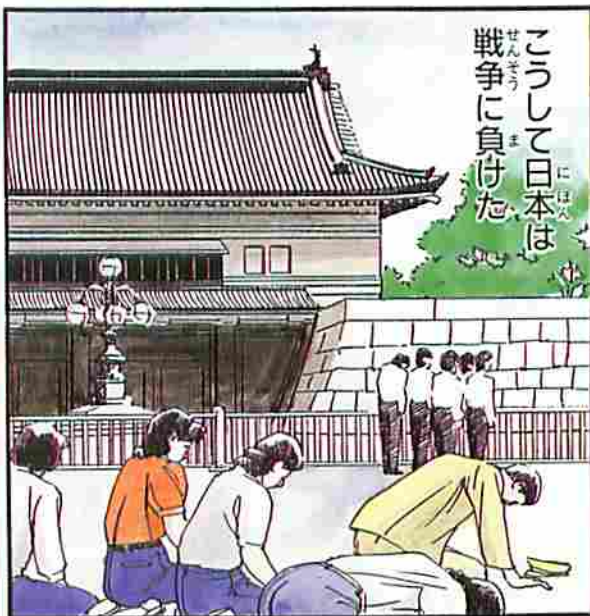
邦男は
大やけどを負って
二日後に死んだ
そうだ

八月
広島と長崎に
原爆が落とされる

もう日本には
戦う力は
残っていないかった



こうして日本は
戦争に負けた



やがて
集団疎開していた
私たちが帰って
きて……

父さんも
戦地から
もどつてきた





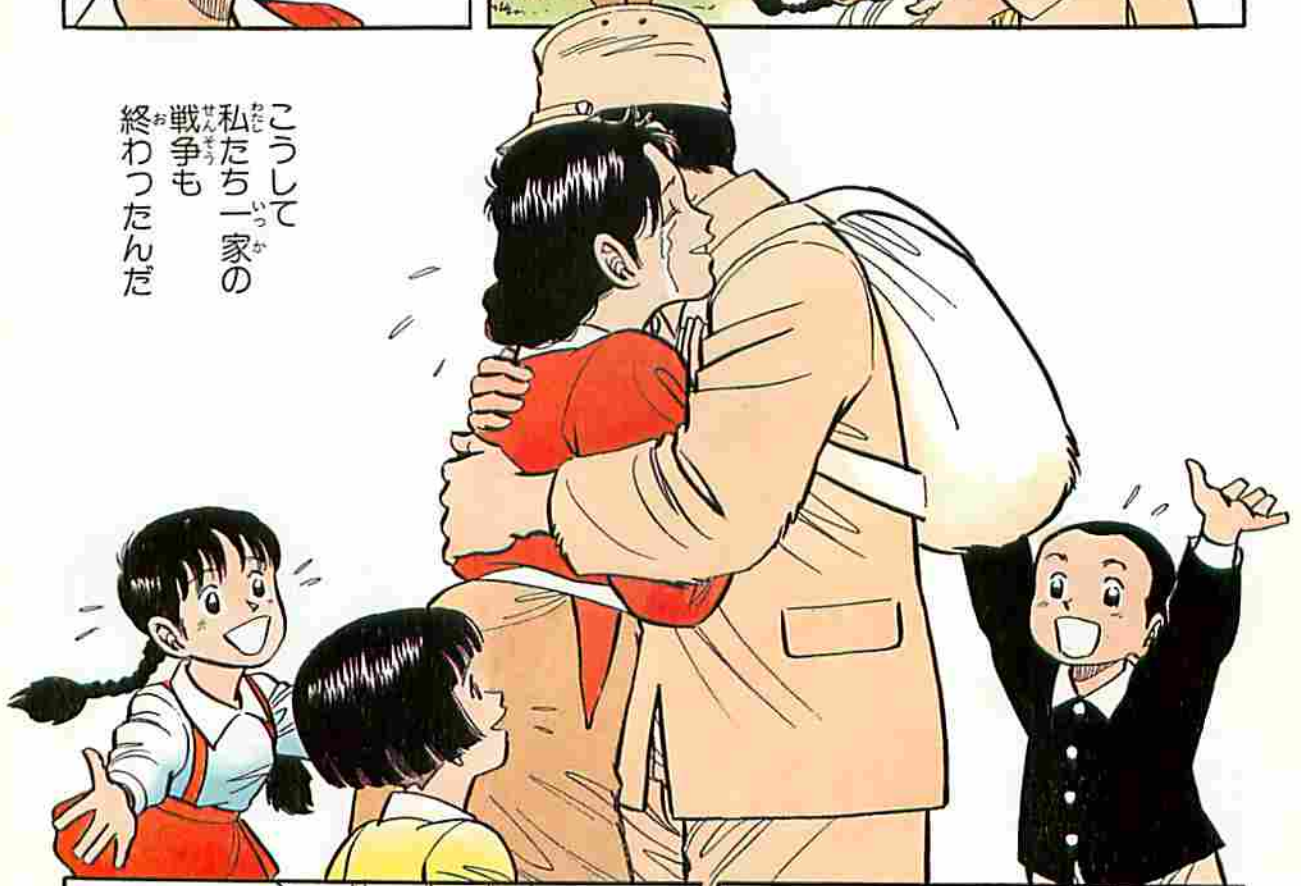
あなた……
ごくろうさま
でした



おかえり
なさい！

とう
父ちゃん
おかえりっ

こうして
私たちが一家の
戦争も
終わったんだ



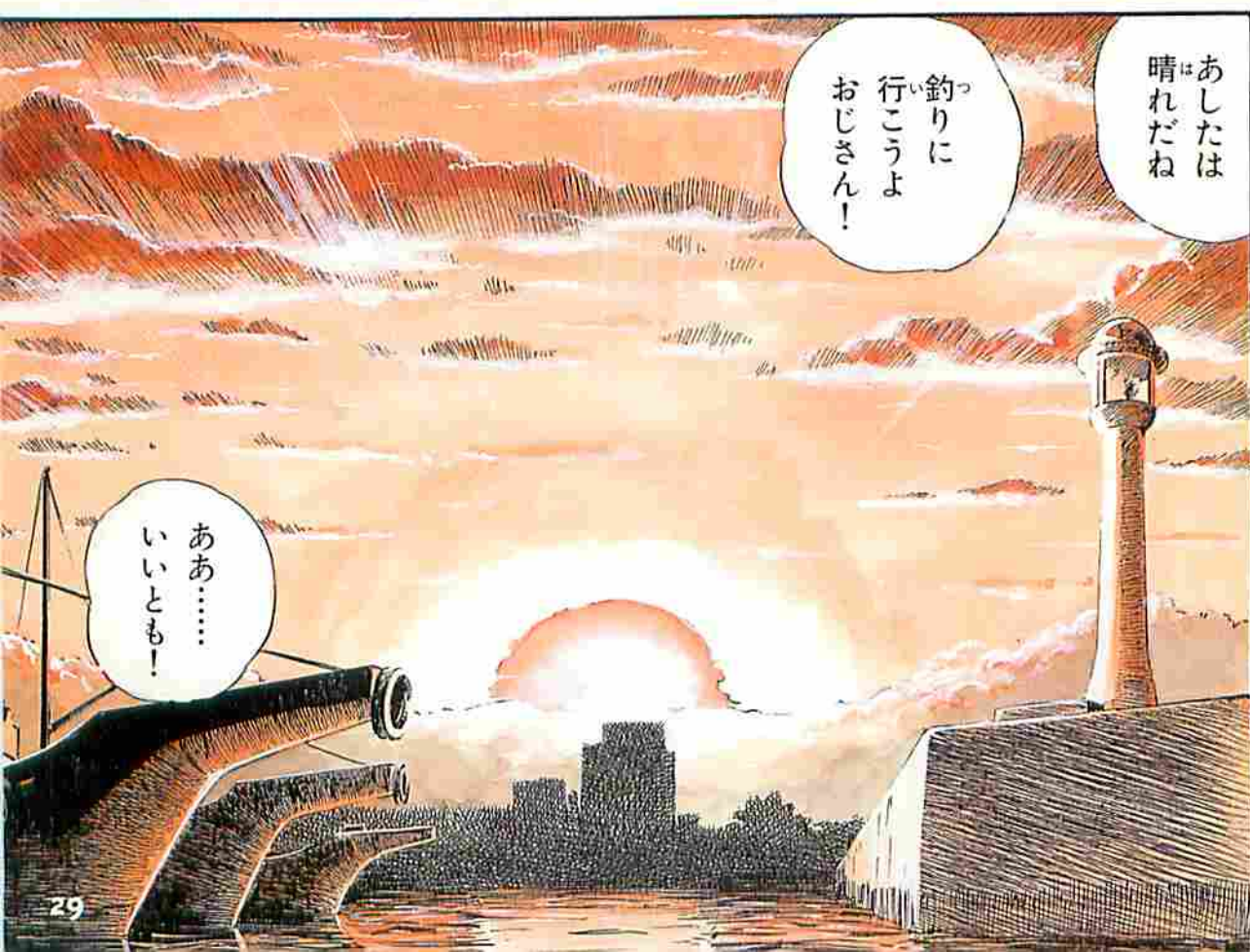
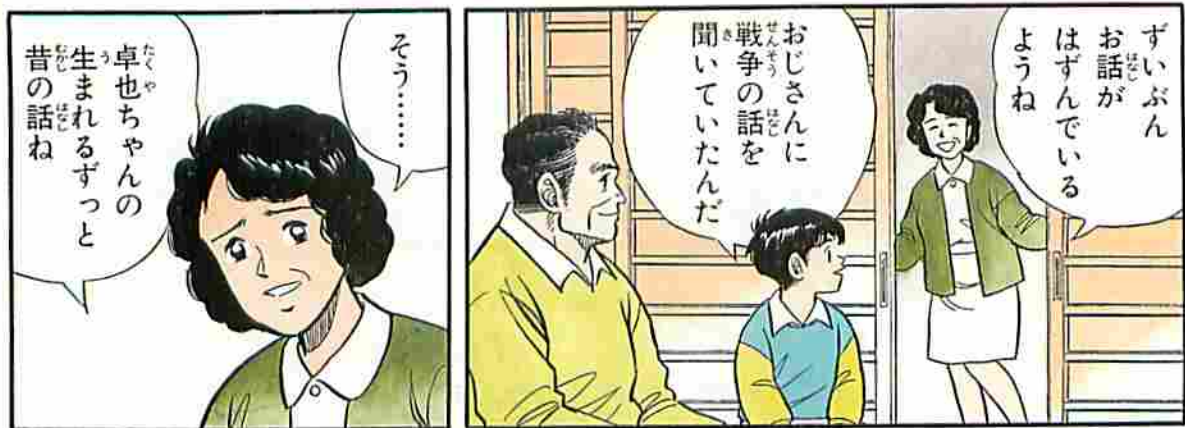
とう
父さんが
平和の和の字を
とって「和男」と
名づけたんだ

しゅうせん
終戦から二年後
おまえのお父さんが
生まれ……



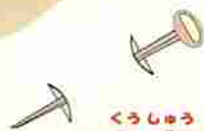
おとなりの
和彦さんは……？

みな
南の島で
戦死したらしい
帰っては
来なかったよ……



おもなできごと

- 1931年 昭和6年 満州事変が起こる。
このころから軍人が力もちはじめ。
- 1932年 昭和7年 5・15事件、海軍の将校らが犬養毅首相を暗殺する。
政党政治が終わり、さらに軍人の力が強まる。
- 1933年 昭和8年 日本は国際連盟を脱退。
- 1936年 昭和11年 2・26事件、陸軍の青年将校たちが高橋是清蔵相らを暗殺する。
- 1937年 昭和12年 日中戦争がはじまる。
民主主義や自由主義の思想への弾圧がはじまる。
- 1938年 昭和13年 国家総動員法の制定で総力戦体制が強まる。
- 1940年 昭和15年 日独伊三国同盟が結ばれる。
- 1941年 昭和16年 小学校が国民学校と名前がかわる。
日本の海軍がハワイの真珠湾を攻撃する。太平洋戦争がはじまる。
- 1942年 昭和17年 アメリカ軍機が日本をはじめて空襲する。
日本の艦隊、ミッドウェー海戦でやぶれる。
もの不足のために配給制度が強められる。
- 1943年 昭和18年 ガダルカナル島の日本軍が撤退をはじめ。
中学生以上の学生や女学生が武器をつくる工場などで働かされる。
大学生も学業のとちゅうで戦地に行くようになる(学徒出陣)。
- 1944年 昭和19年 大都市の国民学校の子どもの集団疎開がはじまる。
サイパン島の日本軍が全滅する。
- 1945年 昭和20年 東京などが大きな空襲にあい、焼け野原になる。
広島・長崎に原子爆弾が落とされる。
日本、ポツダム宣言を受け入れて降伏する。



くらしの空襲にあったおもな町

1942年(昭和17)の4月から戦争が終わった1945年(昭和20)の8月までのあいだ、日本国内の以下のような場所が空襲にありました。ひとつの場所で何回も空襲にあった町もあります。このほかにも規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの空襲がありました。この空襲で50万以上の人が亡くなりました。

■北海道	■群馬県	■福井県	■滋賀県	■山口県	■熊本県
旭川市	前橋市	福井市	大津市	下関市	熊本市
室蘭市	高崎市	敦賀市	■大阪府	宇部市	荒尾市
釧路市	桐生市	■山梨県	大阪市	山口市	宇土市
帯広市	伊勢崎市	甲府市	堺市	徳山市	■大分県
根室市	太田市	■長野県	豊中市	防府市	大分市
本別町	■埼玉県	長野市	高槻市	下松市	別府市
■青森県	川越市	上田市	■兵庫県	岩国市	中津市
青森市	熊谷市	■岐阜県	神戸市	小野田市	日田市
■岩手県	川口市	岐阜市	姫路市	光市	佐伯市
盛岡市	■千葉県	大垣市	尼崎市	■徳島県	■宮崎県
花巻市	千葉市	■静岡県	明石市	徳島市	宮崎市
釜石市	銚子市	静岡市	西宮市	■香川県	延岡市
■宮城県	船橋市	浜松市	芦屋市	高松市	日南市
仙台市	館山市	沼津市	伊丹市	■愛媛県	■鹿児島県
石巻市	木更津市	清水市	相生市	松山市	鹿児島市
塩竈市	松戸市	磐田市	■和歌山県	今治市	川内市
■秋田県	■東京都	■愛知県	和歌山市	宇和島市	串木野市
秋田市	区部	名古屋市	海南市	八幡浜市	阿久根市
■山形県	八王子市	豊橋市	有田市	西条市	出水市
酒田市	立川市	岡崎市	御坊市	■高知県	指宿市
■福島県	■神奈川県	一宮市	田辺市	高知市	国分市
郡山市	横浜市	瀬戸市	新宮市	■福岡県	西之表市
いわき市	川崎市	豊川市	串本町	北九州市	垂水市
■茨城県	平塚市	■三重県	■鳥取県	福岡市	喜入町
水戸市	藤沢市	津市	米子市	大牟田市	山川町
日立市	小田原市	四日市市	境港市	久留米市	額姪町
■栃木県	■新潟県	伊勢市	■岡山県	■長崎県	知覧町
宇都宮市	新潟市	桑名市	岡山市	佐世保市	東市来町
足利市	長岡市	上野市	■広島県	島原市	東郷町
真岡市	■富山県	鈴鹿市	呉市	諫早市	始良町
田沼町	富山市		福山市	大村市	

昭和54年3月内閣総理大臣官房管理室編「全国戦災実情調査報告書」より

**社団法人
日本戦災遺族会**

〒102
東京都千代田区麹町1-3
山京ビル4F
Tel. 03-3264-5287